

## 令和5年産米の検査スタート

当JA管内の農業倉庫で、9月15日(金)から令和5年産米の検査が始まりました。今年度は54人の農産物検査員が農業倉庫やカントリーエレベーターなど28か所で品質検査を行っており、約60万俵の取り扱いを見込んでいます。

追分低温倉庫では同日、佐藤広美組合長が倉庫作業員に「組合員が収穫した大切な米であることを念頭に置き、労働災害などに気を付けて頑張つてほしい」と激励しました。

倉庫内には紙袋やフレコン袋に入った新米が次々と運び込まれ、農産物検査員は目視や水分計、穀粒判別器などで玄米の状態を確認し、形状や被害粒の有無など



1

を観察して等級を定めました。検査の開始を目前に控えた7日(木)には、農産物検査員と指導的農産物検査員を担う職員に当JAから辞令を交付しました。四ツ小屋低温倉庫で検査を行う秋田地区営農センターの長門雄生職員は「良心に従い、適正かつ確実な検査を徹底する」と意気込みました。



2



3

📷 1 …今年産米の品質を観察する農産物検査員(太平低温倉庫)  
2 …倉庫に並ぶフレコン袋(船越低温倉庫) 3 …適切な品質検査を誓いました

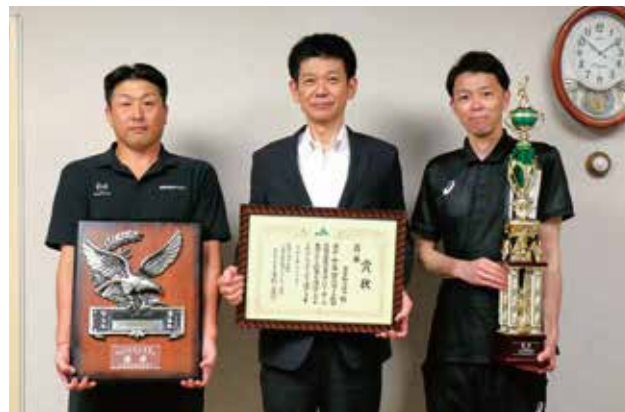


## 地産地消・国消国産の重要性を呼び掛け

9月20日(水)、秋田商工会議所の商業部会と観光料飲部会の合同部会が開かれ、当JAとJA秋田中央会が地産地消や国消国産の取り組みを紹介し、量販店や飲食業者などに地場産品への理解醸成を促しました。

佐藤広美組合長は「資材などの高騰で農家の経営が厳しい一方で、価格転嫁ができていない状況だ。生産現場の現状や課題を少しでもご理解いただきたい」と呼び掛けました。秋田地区営農センターの石井直樹センター長は「今朝採りたての枝豆」などのJAによる地産地消の事例を解説しました。

📷 地場産品の活用促進などを呼び掛けました



## 役職員連盟男子バレーボール大会で優勝

9月19日(火)、第41回JA秋田役職員連盟男子バレーボール大会がCNAアリーナ★あきたで開催され、当JAチームが優勝を果たしました。久々の開催となったところ、当JAの職員と(株)JA秋田なまはげライフサービスの社員が一丸となってプレーに励み、見事に頂点を掴みました。優勝を記念して、盾とトロフィー、賞状が当JAに贈られました。

同日、選手として参加した共済課の高橋善友課長と矢留支店の押切広幸支店長が佐藤広美組合長に大会結果を報告し、佐藤組合長が健闘を称えました。

📷 全県優勝を喜ぶ選手ら